

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401426		
法人名	有限会社 気楽		
事業所名	グループホーム ポテトの丘	ユニット名	
所在地	長崎県雲仙市愛野町乙3501-3		
自己評価作成日	平成25年12月11日	評価結果市町村受理日	平成26年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F		
訪問調査日	平成26年1月29日	評価確定日	平成26年2月15日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家族の思いも踏まえて、一人一人の気持ちをくみ取りながら日々の生活を共に過ごす。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホーム名の通り、周辺はジャガイモ畑が広がっている。家族や地域の方から野菜などの差し入れも多く、職員全員で感謝の気持ちを伝えている。ホームの前は綺麗な海が広がり、気候の良い時はホームの庭で海や空を眺めながら、食事をする時間が作られている。男性職員の活躍もあり、ドライブの機会も増えており、女性職員も細やかな心配りを続け、お花が好きな方のお部屋の外にチューリップの球根を植え、日々の成長を語り合う場が増えている。25年度は職員個々の目標を作ると共に、行事の企画を任せるようになり、24年6月に開設した“宅老所 音色”の職員や利用者との交流も楽しみ、職員個々がレベルアップする機会になっている。言葉での意思疎通が難しい方も多く、職員が利用者の傍に座り、真剣に思いを聞きとる姿勢も日常で、表情や仕草で思いや意向を確認している。排泄時に失禁が無かった時に、思わず「ありがとう」と言う言葉をご本人に伝える事もあり、理念にも通じる、“今とゆう時間を大切に…、そっと寄り添い共感し…、人間として誇りを持ち、自分らしい最終を迎えるために…”、運営者の方々と職員、家族の方々が思いを一つにして、日々の生活支援を続けているホームであった。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・朝礼時理念を読みあげ意識づけをしているが、個々がどのように理解しているか解らない。地域密着の理念は含まれていないが、少しずつ根ざしているような気がする。	理念の唱和と共に、25年度から“今月の目標”を作り、日々実践している。“1.私のことを分かってくれる人と、一緒にゆっくり過ごしたい”と言う内容もあり、職員全員でご本人への寄り添いを続けると共に、自宅での生活が継続できるように、ご本人と家族の間でクッションの役割も果たしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	身体的理由もあり日常的な交流はないが、運営推進会議の時に話かけてもらっている。役員が行事や掃除に参加している。	代表が浜部落の自治会長をされており、26年度までには地域の方との消防訓練も検討していく予定である。ゴミステーションの花壇作りや清掃作業には管理者が参加し、地域の集まりでは食事会なども楽しませている。24年度までは中学校の体験学習を受け入れており、今後も子ども達と交流する機会を作っていく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の方々には、話す機会をもうけている。又さらに相談に来て頂けるように声掛けはしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	和やか雰囲気であり、皆さん思い思いの意見を出して頂いている。	参加者の方は地域の状況を良く把握されており、地域包括の職員との交流の機会になっている。26年1月には“認知症の家族の会”の方が介護体験を話して下さり、参加者からも「良かった」と言う声が聞かれた。和気あいあいとした会議であり、今後もゲストを増やすと共に、相談場所としてのホームの役割を発信していく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあった時は、相談にのって頂いているが、密にとっていない。	24年6月に“宅老所音色”を開設後、雲仙市との情報交換も深まり、親身にアドバイスを頂いている。管理者が申請や手続きのために支所を訪れ、入居の時には広域の方に報告している。生活保護課のソーシャルワーカーとの連携も続け、必要に応じて家族の事も相談している。福祉課や地域包括から入居相談も受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないケアを心がけている。トイレで傾きがある方は、バーを使用している。	他施設の虐待記事が掲載された新聞の切り抜きを職員と共有している。“身体拘束は原則全面廃止”という方針のもと、利用者個々の行動や心理を把握し、職員同士が連携しながら、“身体拘束の無いケア”を続けている。お気持ちが混乱されている時は職員が寄り添い、その方の世界に入って喜怒哀楽を共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	情報交換をし、防止に努めている。日常使用している言葉使いの中で、意識なく使っている時がある為、言葉の虐待にならないように努めていく。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について説明後、手続きをした方がおられた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際は説明を行い納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時意見や要望を聞くようにしている。中には、あまり立ち入り過ぎないようにしないといけない方もおられる。	“ポテトの丘だより”も好評で、ケア内容の意見を頂いている。自立支援の視点も大切に、ご本人と家族に説明しており、ご本人の最適な生活の仕方、生活場所の話し合いを続けている。家族の方が髪を切って下さったり、お饅頭などを作ってきて下さり、一緒に外出もされている。今後も、家族の役割を増やしていく予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時やその他でも、意見を聞く機会をもうけており運営に反映させている。	25年度は、敬老会などの企画を職員に任せる事で、職員主体の行事を行う事ができた。運営者が企画内容のフォローを行う事で、更なるシミュレーション能力のアップにも繋がり、職員のモチベーションにも繋げる結果になっている。職員の誕生日には、ケーキやお花を贈り、25年からは個人面談も始めており、職員の意見を業務に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の家庭の事情に応じ、希望を受け入れ働きやすい環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を掲示しており、参加しやすい環境を作っている。個々にあった研修に参加させている。シフトや家庭環境の面で難しい時もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	支部の研修には多くの職員が参加するようにしており、意見交換の場にもなっている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報を共有し、コミュニケーションが取れる方とは会話の中から不安な事等、早めに察知するよう努めている。レベルが低下しておられる方は、本人の意思に沿うよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望を言えない心境であることを察しながら、話しやすい雰囲気を作るように努めている。面会時信頼を得るようコミュニケーションをとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報をもとにミーティングを開き、本人が必要としている支援内容を話し合い対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	重度な入居者が多い為スタッフペースではあるが、尊敬の念を頭に置き、本人の思いをくみ取りながら介護するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を考えながら、来訪時は様子や状態を伝えるとともに、家族とのかかわり合いが必要と思って頂くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の名前や地名等を会話に取り入れ、思い出せる機会をつくるように心がけているが、体力・認知力低下もあり関係の継続が難しくなっている面もある。	毎年、家族や馴染みの苺園の方から美味しい苺が届いている。牧場にドライブするうちに馴染みになり、「牛を見に行きたい」と言う声が聞かれ、「牧場でお弁当を食べたい」という意欲まで引き出す事ができた。「仏様参りに行きたい」との思いがあり、家族が連れて行って下さり、馴染みの美容室には職員がお連れしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状態を見ながら、利用者同士が支え合えるような空間をつくり、共同生活でより良い関係が保てるように努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何年たっても訪問して下さる方もおられるが、ほとんどの方は疎遠になっている。相談があれば応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知度の差・身体面を頭にいれながら、思いが伝えられる人は出来るだけ添えるようにしており、困難な場合は今までの暮らしの中で把握するよう努めている。	意思疎通が難しい方が増えている。表情や仕草等から思いを汲み取るようにしており、職員が利用者の傍に座り、真剣に思いを聞きとる姿勢も日常に見られる。小さな表情の変化を読み取る事ができる職員も多く、職員同士の情報共有を続けている。「髪を切りに行きたい」などの意向も把握し、実現できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、馴染みの物を持って来る方がおられない。生活歴・紹介先からの情報・家族からの聞き取り・会話の中から聞き出す等で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々心身の状態に注意し、過ごし方を共有している。重度化もありスタッフ中心のケアになりがちである。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人思いをくみ取り又家族の意向を踏まえ、スタッフの気づきを意見に反映し、その人に合った介護計画を作成している。	25年から心身状況やADLの時系列シートを作成している。「どうしていいかわからないが・・・」などの、ご本人の苦しみも含めて寄り添い、対応策も検討している。生活リハビリにも取り組み、体調に応じてこれまでの歩行も続けている。今後も“ご本人本位”の計画作りを行うと共に、具体的な短期目標も作成していく予定である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の状態の変化を記録に記入し、目を通すと共に申し送り等で伝え、共有しながら介護の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに、合った対応が出来るよう話し合いながら支援に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今の状況では地域資源を活用するのが難しく支援できていない。今後はどのような地域資源があるか勉強していく必要がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週に1度の往診又は、他の医療機関の方は家族付き添いで病院受診をして頂いている。	ホームに看護師が勤務しており、職員の安心になっている。毎週、訪問看護も利用し、往診も受けられ、24時間体制で医療機関との連携が図られている。体調変化も熱心に医師に報告し、必要な入院に繋げるための支援をしている。行動障害等は専門医に相談し、適宜薬を減らす調整もして頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化や気づきを施設内の看護師や訪問看護師に伝え、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は訪問し状態把握に努め、連携室と連絡を取りながら早期退院ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で伝えているが意識して頂くのは、なかなか難しい。話し合いの場を持ちながら、信頼関係を築いていけるように努めている。	「最期はホームで・・・」という方も多く、医療機関での治療の必要が無い場合は、利用者と家族の意思を最優先としている。24年度に終末期ケアが行われ、家族や牧師、シスター、信者の方が来て下さり、ご本人の笑顔を見る事ができた。ホームの看護師を中心に、主治医と訪問看護師との連携も図り、職員全員で精神誠意のケアをさせて頂いた。ご本人の生命力を学ばさせて頂く機会にもなった。	ご縁があつての入居(出会い)であり、今後も主治医や看護師、家族と連携し、ホームでの終末期ケアをさせて頂きたいと考えている。家族の揺れ動く気持ちに寄り添うと共に、「ご本人にとっての最適な看取り支援」を行うために、日頃からご本人の意思(医療への意向も含めて)を確認し、記録に残していく予定にしている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の訓練を実施しているが、いざという時身につけているか解らない。今後も行なっていく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練はしているが、重度化もあり確実に避難させることができるか、疑問であるのでこれからも訓練をしていく必要がある。	スプリンクラーが設置され、25年3月には非常用照明設備も設置された。自主避難訓練を行うと共に、愛野分署の方々の訓練も行い、「出火場所に応じて、避難経路を考えて下さい」と言うアドバイスも頂いた。災害に備え、地域の消防団・住民・避難家屋・職員の家族にも協力をお願いし、1週間分の食料と水も準備している。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日常生活を共にしており、親しみをもった声掛けの中に尊敬の念を持って接するように心がけているが雑音に感じられる時がある。意思表示ができない方にも、声掛けや心使いを意識し介助するよう努める。	職員の方も「人生の先輩」と言う思いで接しており、ご本人のペースを尊重し、“自分だったら”という振り返りも行われている。職員自身が利用者になり変わる経験を積む事で、“座って下さい”と言う言葉も無くなり、職員の行動も変化している。薬の配薬をする時にも、同じ目線でケアするように伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる人は、希望を取り入れるようにしている。自分の思いを伝えられない方には、行動の前に説明をし声掛けをしながら介助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	数名の方は本人のペースを大切に過ごして頂いている。本人の希望に沿いたいのは解っているが、重度化の為スタッフサイドで支援していることが多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	最小限の身だしなみに心がけている。選べる方は、お気に入りの服を選んで頂いている。重度の方は、できるだけ明るい服を着て頂くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人に合った、形体で盛り付けをしている。準備・片付けは、体力的な面もありしていない。時々食べたい物はないか聞いている。食事は一緒に食べると共に、話しをしながら楽しい雰囲気作りを心がけている。	調理担当の方や職員が愛情込めて手作りしており、苦手な食材(肉や魚)も把握し、別メニューが作られている。地元のジャガイモを使った料理や旬の食材も多く、ドッリングも手作りしている。郷土料理の押し寿司やチャンポン、芋餅も作られ、時期に応じて、ツクリきや干し柿と一緒に作っている。今後も役割を増やしていく予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を把握し個人に合った食事形態を変え、摂取できるよう努めている。水分補給が難しい方は、お茶ゼリー等で補っている。栄養補給の必要な方は、エンシュアゼリー等で補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その方に合った口腔ケアをおこなっている。嫌がる方のケアが不十分な場合がある。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけオムツ等使わないようにしているが体力の低下で、やむおえずその時に合った対応をしている。立位できる状態の方には、トイレでの排泄を促している。	重度化している中、昼間はトイレで排泄し、できるだけ布パンツ(+パッド)で過ごして頂いている。個別の誘導を続ける事で、リハビリパンツを使用していた方が3Dパンツに変更できた方もおられる。前面バーも活用して安全に配慮すると共に、羞恥心への配慮で、トイレの外で様子を伺う事もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	現状は運動をして頂くことが難しく、排泄の状態を見ながらマッサージ・乳製品・薬等で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	便失禁をはぶき、日にちや時間は決めているが本人が拒否する時は無理強いせず気分が良い時に入浴して頂いている。ほとんどの方が全介助であり本人の希望に添えないこともある。	毎日入浴できる体制であり、好みの湯温に調節し、ゆっくり湯船に浸かれている。季節に応じて柚子・菖蒲・入浴剤等を入れており、職員との会話も楽しませている。つかまり棒や滑り止めマットを活用し、転倒には十分配慮しており、必要時は2人で介助している。洗身時は、自分で洗える所は洗って頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に応じ午睡を取り入れ、休息の時間をつくっている。夜間睡眠ができない方は声掛・話等で安心して頂くように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬一覧表を見ながら間違いがないように確認し服薬して頂いているが、目的・副作用・用法・容量までは理解していないので継続的に勉強をしていく必要がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合った音楽・趣味・手仕事等してもらうことで、楽しみや役割をもちながら過ごして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的には外出できていないが、気候の良い時は庭先での日光浴や食事をしている。戸外に無理やり出すのも本人にとって、本当に良いのかわからない方もおられる。	心身状況の変化もあり、車いすの方も増えている中、ホームの庭で海や空を眺めたり、食事をする時間が作られている。体調に応じて、男性職員が運転を担当し、牧場などにドライブに出かけたり、お店に饅頭を買いに行かされている。お誕生日の時は回転寿司に出かけ、お店の方が小さな握り寿司を作って下さり、ご本人もとても喜ばれた。家族と一緒にデパートに行かれる方もおられる。	



自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族関係で、お金を持つことで混乱やもめ事に繋がることもあり、希望に応じた支援は難しい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙のできる人は、ほとんどおられないが、希望があった場合はしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場は飾り物・花等飾ることで、季節感を感じられるようにしている。室温の快適温は個人差があり、常に心配りが必要である。	ホームから海を眺める事ができる。玄関横に職員の写真を掲示し、苺園の方から頂いた苺のプランターも置かれている。木の温もりを感じる家具が置かれ、利用者の塗り絵もあり、廊下には職員や家族による手作りの作品が飾られている。リビングは床暖房で、温湿度の管理や換気も行われ、利用者同士の関係を配慮した席の配置をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の居場所を工夫し、できるだけ気分不快にならないような配置で過ごして頂けるようにしている。動ける方は気ままに行ったり来たりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みが少ないこともあるが、家族の写真等できるだけ居心地の良い部屋になるように工夫している。	居室は明るく、布団や衣装ケース等を持ち込まれている。ラジオやカセットを持参し、好きな音楽を流している方もおられ、家族が作られた折り紙の作品やお孫さんが書かれた絵、家族や愛犬の写真なども貼られている。職員からの誕生日プレゼントである”ご本人の似顔絵”等も飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の残存機能が、少しでも長続きできるように気を配っている。居室・共同空間の整理整頓に心がけている。		